

発行者	兵庫県農業共済組合穴粟事務所	(0790) 60-3004
連絡先	龍野農業改良普及センター	(0791) 63-5174
	穴粟市 農業振興課	(0790) 63-3109
	ハリマ農業協同組合	
	営農経済センター	(0790) 72-1235

令和5年

# 水稻病虫害防除情報

第3号（8月24日発行）

## 1 水稻の生育状況・病虫害発生状況

向こう1ヶ月の天気（8/19～）は、平均気温の高い確率が70%と見込まれています。降水量については、ほぼ平年並みと予想されています（1か月予報 大阪管区気象台 8月17日発表）。

### ▶ 農業技術センターにおける生育調査結果

品種（調査地点）	調査日	草丈（平年比）	茎数（平年比）	主稈葉数（平年差）	移植日
コシヒカリ（朝来市）	8/10	107cm(100%)	460本/m <sup>2</sup> (109%)	13.8(+0.4)	5/10
きぬむすめ（加西市）	8/14	80cm(89%)	359本/m <sup>2</sup> (94%)	15.2(-0.3)	6/15
ヒノヒカリ（加西市）	8/14	83cm(99%)	386本/m <sup>2</sup> (93%)	15.1(-0.1)	6/15

### ▶ 病虫害調査結果（8月22日調査）北部地区

病虫害名	調査結果の概要
いもち病	一部で病斑が見られます。
紋枯病	一部で軽度の病斑が見られます。
縞葉枯病	今回の調査では確認されていません。
ウンカ類	各地で発生しています。 ・「秋ウンカの確認はされていません。」
ツマグロヨコバイ	今回の調査では確認されていません。
カメムシ類	一部で発生が確認されました。

## 2 調査結果詳細

令和5年度 第3回		水稻病虫害発生状況調査 結果一覧表								調査日:令和5年8月22日					天候:晴		
調査地区名	作付品種	田植日	病害(抽出25株中の発病株数)								害虫発生状況					その他 箱施用剤 有・無	
			葉いもち		穂いもち		紋枯病		縞葉枯病		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	カメムシ		
			発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度		
中比地	ヒノヒカリ	6/1										少	少				有
矢原	ヒノヒカリ	5/24											少			多	有
宇野	キヌヒカリ	5/13											少			多	有
青木	コシヒカリ	5/25											少			中	有
葛根	コシヒカリ	5/28														多	有
西深	コシヒカリ	5/14					3株	少				少				少	有
杉田	コシヒカリ	5/15	1株	少			2株	少								少	有
谷	コシヒカリ	5/15	2株	少			2株	少									有
西山	コシヒカリ	5/13															有

※ 発生程度は、無、少、中、多、甚の5段階評価です。

(病気の発生程度は病斑の進行具合により評価しています。)

## 3 病虫害について

### ●トビイロウンカ（秋ウンカ）

収穫前に坪枯れを引き起こすトビイロウンカの発生は確認されませんでした。兵庫県病虫害防除所の調査でも発生が確認されていません。トビイロウンカの増殖を見逃さないように、こまめに株元を中心に見回り、適期防除を心がけましょう。

### ●斑点米カメムシ類

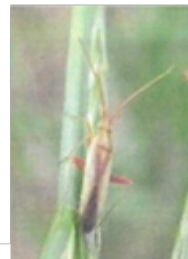
今回の調査で、南部地域でも多数の**カメムシ類の発生が確認されました**。兵庫県病虫害防除所の予報でも、7月以降の発生が確認されており、例年に比べやや多いと予想されています。斑点米の原因となるカメムシ類は、雑草が繁茂しているところに集まり繁殖します。中生品種の畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに完了させるようにしましょう。



クモヘリカメシ



ホソハラカメシ



アカスジカスミカメ



トゲシラホシカメシ

## 4 有効な薬剤等と今後の管理

### (1) 臨機防除

- ・ウンカ、カメムシ類：中生品種（きぬむすめ・もち）での多発地域は、出穂後5～10日頃に防除してください。

対象病害虫	薬剤名	散布適期
ウンカ類 カメムシ類	スタークル豆つぶ	～収穫7日前

※薬剤は使用量等登録内容の確認を十分行い、適切にご使用ください。

※上記薬剤に関する詳細は、龍野農業改良普及センター、ハリマ農業協同組合までお問い合わせください。

※特別栽培米等生産者の方は、栽培ごよみを確認のうえ、龍野農業改良普及センター、ハリマ農業協同組合までお問い合わせください。

### (2) その他

- ・倒伏し、穂が地面に着いている場合は、穂発芽の恐れがあるため、できるだけ起すようにしてください。
- ・早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈り取りの7～10日前まで適度な湿りを保ちましょう。

**農薬の飛散防止に努めましょう。作業中の熱中症対策を忘れずに！**